



# 種子冷蔵苗を用いた トルコギキョウの夜間変温管理栽培



‘キングオブスノー’



変温管理栽培試験の様子

表1 変温管理の違いが生育および開花に及ぼす影響

処 理 区	育 苗 方 法	平均発蕾日および平均収穫日					切り花長 (cm)						
		11月		12月		1月		2月		3月			
		中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下
10℃	変温 日没後昇温	種子冷蔵 + 冷房	○										64
	早朝昇温	種子冷蔵 + 冷房	○						●				70
	夜温一定	種子冷蔵 + 冷房		○								●	64
15℃	夜温一定	冷房(慣行)		○							●	68	
												●	72

注：○第1花の平均発蕾日 ●平均収穫日(種子冷蔵+冷房育苗) ●平均収穫日(冷房育苗)  
「種子冷蔵+冷房」は2008年6月29日に播種後、35日間種子冷蔵し、53日間冷房育苗。  
「冷房」は2008年7月31日に播種後、56日間冷房育苗。2008年9月25日定植。昼温は25℃で管理。  
平均発蕾日は第1花を上から肉眼で確認した平均日。

トルコギキョウの冬春出し栽培では、切り花品質を高めるため比較的高い温度で栽培が行われており、近年の重油高騰対策として、省エネ栽培技術の確立が求められています。一方、トルコギキョウの育苗において、種子冷蔵と冷房育苗を併用することによりロゼット化(節間伸長の停止)が回避でき、生育も早まることが明らかになっています。

そこで、春出し栽培において、種子冷蔵と冷房育苗を併用した苗を用いた変温管理による栽培法を検討したので紹介します。

育苗では、種子冷蔵と冷房育苗を併用した場合と冷房育苗のみの比較を行いました。品種は‘キングオブスノー’を用いて、2008年9月25日に定植し、11月5日から加温を行いました。夜温は、17:00~20:00に20℃とし、それ以外の加温時間帯を10℃と

する「日没後昇温区」、6:00~9:00を20℃とし、それ以外の加温時間帯を10℃とする「早朝昇温区」の変温管理と、10℃の夜温一定管理を設けました。

その結果、収穫日は変温管理を行うと15℃夜温一定・冷房育苗の慣行法と同程度でしたが、10℃夜温一定管理では著しく遅れました。特に冷房育苗のみの苗を用いた場合にその傾向が強くみられました。また、切り花品質は処理に関係なくほぼ同等でした(表1)。

このことから、種子冷蔵と冷房育苗を併用した苗を用いて変温管理を行うことによって、重油使用量の削減ができると思われました。

次年度は、実際の重油使用量の削減効果についても検討する予定です。

(花き担当 門田太志 088-863-4918)